

庄内町教育委員会議事録

令和元年第 14 回定例会

令和元年 12 月 26 日

庄内町教育委員会

庄内町教育委員会 令和元年第 14 回定例会 議事録

- 1 会議日程 令和元年12月26日(木)
 開会 午後2時02分
 閉会 午後2時49分
- 2 会議場所 庄内町役場立川総合支所 第二会議室
- 3 内 容
- 1 開 会
- 2 議事録承認
 令和元年第13回定例会議事録
- 3 報 告
- (1) 経過報告
- (2) 令和元年第4回庄内町議会定例会(12月)について
- (3) 庄内町立中学校の未来を考える懇談会(まとめ)について
- (4) その他
- 4 その他
- (1) 第1回教育委員会定例会の開催について
 日時：令和2年1月29日(水)午後2時00分
 場所：立川総合支所3階 第二会議室
- (2) その他
- 5 閉 会
- 4 出席者
- | | |
|------|----------------|
| 教育長 | 菅原 正志 |
| 教育委員 | 今野 悦次(第一職務代理者) |
| 教育委員 | 梅木 均(第二職務代理者) |
| 教育委員 | 太田 ひろみ |
| 教育委員 | 齊藤 雅子 |
- 5 欠席者 なし
- 6 傍聴人 長堀 幸朗(庄内町狩川)
- 7 説明を要した者及び議事録作成のために出席した者
- | | |
|-----------------|-------|
| 教育課長 | 佐藤 美枝 |
| 社会教育課長 | 上野 英一 |
| 社会教育課長補佐兼社会教育係長 | 阿部 浩 |
| 指導主事 | 高橋 一枝 |
| 指導主事 | 富山 裕二 |
| 教育課主査兼学校教育係長 | 清野 美保 |
| 教育施設係長 | 押切 崇寛 |
| 文化スポーツ推進係長 | 池田 省三 |
| 教育課長補佐兼教育総務係長 | 佐藤 貢 |

開 会	(午後2時02分)
教育長	それでは令和元年第14回庄内町教育委員会定例会を開会します。2 議事録承認に移ります。令和元年第13回定例会議事録について確認したいと思います。訂正や加筆などがあればお願いいたします。
委員	[質疑の声なく]
教育長	よろしいですか。それでは令和元年第13回定例会議事録を承認します。続い

	て3報告に移ります。(1)経過報告について説明をお願いします。
佐藤教育課長	(経過報告資料1に基づき説明する。)
教育長	記載漏れや変更するところ、質問があればお願いいたします。よろしいですか。 (1)経過報告を終わります。(2)令和元年第4回庄内町議会定例会(12月)について説明をお願いします。
佐藤教育課長	(議会付議事件名簿資料及び一般質問通告順資料に基づき説明する。)
上野社会教育課長	(議会付議事件名簿資料及び一般質問通告順資料に基づき説明する。)
教育長	もう少し加えて説明を受けたいものや質問があればお願いいたします。
今野委員	食品ロスのことですけど、今現在どの位の食品ロスが出ているのか、多少は有ると思いますがどんな状況ですか。
佐藤教育課長	共同調理場では、先ず食品ロスが出ないように適正な量を計りながらやっているということで、ただ、中学生の段階になると給食を残す量も少なからずあるので、その事を考えながらも再度適正な量の調整を繰り返して、食品ロスを最小限に抑える配食となるような仕組みで進めています。また、ごみとなる残菜なども鶏を飼育している業者の方へ餌として供給しているので、ごみとして廃棄される食材等はないという状況です。
今野委員	給食の量的にはどうですか。今の子ども達の食べる量というのはどんな状況ですか。
佐藤教育課長	普通の計算をすると余目中学校では給食を残す残量があるということで、そのバランスを随時調整しているので、給食が残らないような提供をしているということです。
今野委員	分かりました。
教育長	特に今の中学生女子の食に対する捉え方も少なからずあるのだと思います。
今野委員	やはり今の豊富な食品の時代では、「自分の口に合わない。」そういったことで「食べない。」というのが多いという事なのでしょうね。
佐藤教育課長	規模が大きい学校ほど残量があるということです。ただ、立川中学校は残さずきれいに食べてくれるという事です。
今野委員	給食数の違いでその辺りのことはあるのだと思っています。
教育長	1校の人数が多くなるとその誤差が出てくる訳で、その分だけ余目中学校は、残る可能性が大きいということです。ただ、各小学校では殆ど完食しているようなので、それを考えれば大変有難いことだと思っています。他に何か質疑はございませんか。
今野委員	経過報告の中でもあったプログラミング学習の事について、その内容をもう少し具体的に説明をお願いします。
教育長	指導主事から説明させますが、特に質問のどの部分ですか。本町での現在の状況ということですか。
今野委員	そうですね。
富山指導主事	パソコン室に簡単なマウスのドラッグ操作で移動して「もし何とかの場合は、その様に実行する。」ということを組み合わせて、「何とかの場合は、光る。」 「何とかの場合は、止まる。」というシュミレーションのソフトが入っていて、理科の場合はその様なものですが、算数では「何度回転する。何歩進む。何度回転する。何歩進む。」ということを繰り返して正多角形を描いたりするもので、音楽の場合では、リズムを作ったりするソフトが入っています。ただ、そのソフトを使った操作で終わるのではなくて、プログラミング思考を育てることが目的であるので、そういう事を情報提供しながらも、先生方には手段が目

	的にならないようにという事を伝えています。機器とかの整備については、各校に購入整備の判断はしていただいています、ソフトに対応する機器の整備となれば高額になるので、各学校において予算の範囲内でその購入判断の対応をしていただいています。
今野委員	分かりました。それを我々教育委員がそういった授業を拝見できるときがありますでしょうか。
富山指導主事	この間、第二小学校でありました。
今野委員	そうですね。ありましたが今後もまた見る機会があればいいなと思います。
教育長	もし、行っていただければ、授業のタイミングが合えば教育委員の皆さんが覗いていただいても構わないと思います。
今野委員	言葉で聞いても我々教育委員が頭の中で理解できない部分があるので、出来れば現場を見てどんな感じの授業をしているのかを理解できればと思います。可能であれば来年度以降の午後からの授業のどこかに設定いただければと思います。
教育長	パソコンそのものについては、各校に 40 台位ずつをパソコン室に置いています。
今野委員	パソコンのネットワーク上での授業となるのですか。
富山指導主事	そうです。この間、第二小学校で行ったのはこの機器とつないで、実際にセンサーの明るさのところを指で隠すと暗くなるので、暗くなると「回る。」ということをつくっておくと、こちらにあるプロペラが回るというもので、実際のものを使っての授業の研修会を終了したところです。
今野委員	これはやがてタブレットなどその様なものに繋がっていくことになるのですか。
富山指導主事	プログラミングの機器の対応は、タブレットに対応する機器もあるし、キーボードに対応する機器もあるし、その両方に対応できるものです。
教育長	ご存じだと思いますが、この前、安倍首相が全国の児童・生徒にパソコン1人1台の整備を進めたいという話をして、早速、国からの通達が出て、その連絡がありました。本町でもいつでもそのことに対応できるネットワーク環境の整備を先ず急がなければならない。そして、その後に子ども達に配分する PC 機種について検討していこうという様な国の施策に則った状況でやっていこうと考えています。課長補足があればお願いします。
佐藤教育課長	12 月後半になって、つい 1 週間位前のことですが、国の補正予算が付くという事で、未だ決定事項ではありませんが、その要望調査がありました。調査の要点は、ネットワーク整備、端末整備ということで、パソコン 40 台は各学校にある訳ですが、それ以外に全体の学校の 3 分の 1 以上のパソコン端末を整備した場合に、その 3 分の 1 を上回った部分について、国が補助しますというような制度で、「取り組みますか。取り組みませんか。」ということで要望調査がきております。国全体では 2,100 億円とエアコン整備時の 800 億円の 2 倍を上回るような予算が付くという事で、令和 2 年度から令和 5 年度位までの整備期間の計画になるようですが、本町でも整備を図っていきたいということで、第 1 回目の調査に手を挙げさせていただいたところです。ただ、詳しい情報が来ておりませんので、今後、補正予算の対応となれば今年度のうちに議会に上程し、議決をいただかなければならないと考えています。整備そのものは、令和 2 年度以降となりますので、翌年度に繰り越して整備して行くこととなりますので、その様になれば具体的な部分が見えてきます。来月の定例会では詳しい事

	をお示しできるのではないかと考えております。
今野委員	分かりました。
教育長	1 回目の国からの要望調査では、本町もその方向に従って進めて行こうという返事で報告したところです。他に何かございませんか。よろしいですか。それでは次に移ります。報告(3)庄内町立中学校の未来を考える会(まとめ)について説明をお願いします。
押切教育施設係長	(資料3に基づき説明する。)
教育長	今のまとめの説明について、来年度以降の考え方を課長から説明してください。
佐藤教育課長	この懇談会のまとめを受けて、来年度以降はどのようなかたちで進めて行くかという事になるわけですが、まず中学校から先がけてやりましたが、学校全体のことを考えて行かなければという事で、これについては、地域のことについても関わってくるわけなので、最初は全体的な学校の在り方を考えていくことを来年度以降スタートしていきます。また、先程から施設の老朽化という部分もありますので、施設そのものが、今後どれ位耐え得るのかどの位保てるのかを含めたもので、計画を作っていかなければなりません。来年度以降は、学校の適正規模、適正配置という言い方をしておりますが、老朽度調査を踏まえた長寿命化計画を策定する年になります。まずこの計画の策定に向けた検討委員会の立ち上げを行って、それを毎年検証しながら、今後10年後はどのような形にしていけばよいのかを、施設、学校と地域を結びつけながら、今の段階では、最終的には10年後のあるべき姿の検討を始める第一歩として捉え、進めて行きたいと思っております。ただ、10年という期間の中でいろんな状況が変わる場合もあります。例えば、今回のパソコンのように国の補助金の状況が変わる場合もありますので、一年一年検証しながら、適切にその様なものに対応しながら、進めていきたいと考えています。現状では10年後どうするのかを検討する検討委員会の立ち上げに向け、町長とも相談しながら、令和2年度の予算を作って行こうと考えています。
教育長	今の報告について、何か質問いただければと思います。
梅木委員	10年後の学校の在り方を考えて行くという事で、今の社会情勢を考えれば、少子化のこともあり、もう少しスピード感を持って取り組んで行かなければならない感じがしています。「施設の老朽化が進んでいる。」「財政的にも容易でない。」そうすると、今、確かに言えるのは、「直ぐに統合する。直ぐに一緒にする。」となると、絶対に反対意見が出てくると思います。でも、大概は将来どうあればいいかは、頭の中にはあるのだと思っております。これから、いろいろな話を積み重ねていくとは思いますが、もう少しスピード感を持って取り組むべきだと思います。それから、こういった話をする人も相手も変わっていく訳ですので、新しい考えをする方々が、これから大勢出てくるのではないかと考えています。
教育長	全くそのとおりだと思います。他にございませんか。
今野委員	今のことに加えて、委員の方についても、幼稚園から中学校までの保護者は今現在の保護者ですが、10年後の保護者は、ちょうど今子どもを授かったという保護者なので、その様な将来において現役でその立場になる人からも、委員としては難しいのかもしれませんが、その人達からの声を聞くことも参考になるのかなと思いますので、もう少し幅を広げたやり方も必要になるのかなと思います。

佐藤教育課長	令和2年度の計画の中にはその様な保護者の方々も入れていくということと、せっかく今回の中学校の未来を考える懇談会委員として検討して下さった方もいるので、その方々からも引き続き何人か入っていただいた中で、進めて行ければいいのかなという事で検討しています。令和2年度の検討会議の立ち上げで、学校全体のものを始めていくということで考えています。ただ、先程あったように10年という考え方はスピード感がなく、厳しいということですが、実は長寿命化計画そのものは、コンクリート強度のこともあり20年先という言い方をしているので、庄内町の施設そのものは既に50年以上も経っているものなので、長寿命化計画の目的としているところと合致しているのかどうかも含めて、今後、計画を立てながらやって行かなければならないというように思っています。
今野委員	令和5、6年に施設の耐用年数が来ることになりますか。平成の年号で言えば37年位ですか。
押切教育施設係長	耐震の耐用年数は47年です。全国的な改築の平均年数は42年です。
今野委員	鉄筋コンクリートの場合は、今言われたことであれば大幅に年数が超えているということですね。
押切教育施設係長	耐用年数が70年、80年と持つように長寿命化するというのが施設の改良の考え方で、先程、梅木委員からももう少し急いでやるべきとの話があって、本町の施設は老朽化が進んでいるので心配はしていました。特に、遊佐町や酒田市は結果的に統合しているという実績があるので、それぞれ情報交換をするために伺って話を聞いてきましたが、統合する場合や改築する場合の判断のタイミングというのが、実は「複式」を迎える時期を想定して統合を行っていることが多数でした。一方で、統合ありきで事務局側の市や町が一方向的に進めることによって、話が進み難くなる。「統合ありきの話なのか。」と後を引くマイナスとなるアドバイスも受けましたので、そこは慎重に進める必要があるなと思っていました。
佐藤教育課長	庄内町の場合は、「複式」になるまでにはまだ時間があります。そのタイミングというのが遊佐町や酒田市の想定するものと合わないのので、本町では、施設の老朽化というところから進めていく方がよいのではないかと考えているところです。
教育長	例えば鶴岡市では、基本的には複式学級になるところを統合していくという一つの物差しをきちんと決めてやっていますが、本町の場合は、課長が言ったように当分5つの小学校で複式になることがないので、今の5つの小学校のままでもいいとなれば、施設の老朽化のことも考えなければいけない。児童数と長寿命化で耐え得る年数の境目をどの辺で設定していけばよいかを、今後、少し研究していかなければ、「何年にこうします。」とは今は言えないという事だろうと思っています。また、今あったように学区再編ということを軽々しく話すことはできないので、地域の人達の意見が一番大事なものであり、地域の人達とのコンセンサスを十分にとらなければ、係長の説明にあったように一歩間違うとどうしようもなくなるので、その事も含めて、来年度からの検討委員会で「どのような進め方をしていきましょうか。」ということも検討する。スタート時点では少し時間が掛かるかもしれませんが、そこで皆が合意した部分が出来れば、話は進んでいくのではないかと考えています。ですから来年度や再来年度の2年間で協議が非常に大事なのかなと思っています。他に質疑はございませんか。

太田委員	最初に「統合ありきの考え方ではない。」という概念が懇談会の立ち上げ当初から言われていますが、やはりその様な立場で対応することが大事なのだろうなと思いました。統合ありきではないという立場で今年度懇談会をスタートして、そのスタートしたということが、口伝えに伝わり「この様な事、あの様な事を、私はこう思う。自分はこう思う。」という意見を持つ人がだんだん増えていき、一つのことを成していくという形が、本当なのだろうと思っています。課長の説明の中で一年一年検証して進めるやり方、統合ありきではないという立場で進めて行くやり方が、大変有難く思いながらお聞きしたところです。
教育長	梅木委員が言われたように少子化であるので、皆が切実に思うところがあって、庄内町はどうなっていくのだろうという部分があるので、そういう事での検討は、スピード感を持って進めていかなければならないと思います。枠組みをどうしますかというところを焦ってしまうと、さっき言ったように戻れなくなる部分があるので、その辺は時間をゆっくり掛けて検討してもいいのではないかとと思っています。
今野委員	皆さんそれぞれに視点が違うのでいろんな意見を持っているのだと思います。例えば、施設分野の事と後は人数的な事の意見など、そういった人たちの意見をどこで集約するのかだと思います。それは会を重ねて柱を決め、話し合って行かなければならない事だと思います。
教育長	この前、お楽しみ給食会があって、立川中学校に行って来ましたが、6人グループの生徒と一緒に給食を食べた時に、生徒に「幼稚園から中学校卒業するまでずっと同じメンバーでは、寂しくない。」と質問したところ、6人の内5人は「ぜんぜん、大丈夫。」と返答。「いっそのこと余目中学校の大勢いるところについて、いろんなことを一杯できた方がいいんじゃない。」と聞いたところ、「そうでもない。」と返答。一人の子は「大勢いて、いろんな事が出来た方がいい。」と言ったのですが、やはり実感としていろんな考えがあるなと思いました。子ども達は子ども達なりにやはり考えていますよね。
今野委員	あまり部活動に対する執着というものは、そんなに考えていないですよ。
教育長	私が行ったクラスは3年生ですから、もう部活動も終わってしまっていて、「高校へ行ったら何をしよう。」ということで頭が一杯になっていて、その辺も大人の発想とまた感覚が違うのだと感じてきたところです。
今野委員	現役の子ども達に聞くということは大事なことですよね。
教育長	来年から検討会で進めていきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。(4) その他の報告はございますか。(その他の報告事項はなく) 4 その他に移ります。(1) 次回の第1回教育委員会定例会の開催については令和2年1月29日水曜日午後2時からこの場所で開催したいと思います。委員の皆さんの日程は如何でしょうか。
委員	それぞれ「対応可能」との発言あり
教育長	よろしいですか。よろしく願いしたいと思います。それでは(2) その他はございますか。(その他事項なく) それでは以上をもちまして令和元年第14回教育委員会定例会を終了します。
閉会	(午後2時49分)